

# 関西経済レポート(7月号)

- 5月の鉱工業生産指数は3カ月連続の前月比プラス。消費増税後、2カ月連続で生産は増加しており、4-5月平均は、1-3月期平均と比して+2.0%高い水準となっている。
- 6月の輸出額は前年比+1.5%と16カ月連続の増加。輸入額は横ばいから同+13.8%と大幅プラスに転じた。結果、貿易収支は-217億円と4カ月連続の赤字となり、前年比1,401億円悪化。
- 夏のボーナス支給もあり、6月景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続の改善。先行き判断DIは3カ月連続で改善し、同月の消費者態度指数も3カ月連続で改善。冷え込んでいた消費者心理が改善しつつある。
- 6月の大型小売店販売は前年比小幅マイナスとなり、駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつある。
- 6月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比マイナスだが、下落幅は大幅に縮小。貸家が大幅に改善。
- 6月の有効求人倍率は前月から横ばい。5カ月連続で1倍台を上回った。失業率は4.5%と前月から上昇した。労働力人口の増加の影響が見られ、雇用環境は引き続き好調である。
- 6月関西の公共工事請負金額は前年比+25.0%と4カ月連続のプラスも、季節調整値は3カ月ぶりの前月比マイナスとなった。5月の建設工事は前年比+5.7%と25カ月連続のプラスも、高水準の未消化工事残高により、公共工事請負金額と出来高との間に乖離が見られる。
- 小幅の景気刺激策の影響により、2014年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.5%となり、前期の同+7.4%と比べて幾分加速。市場コンセンサスを上回る結果であった。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

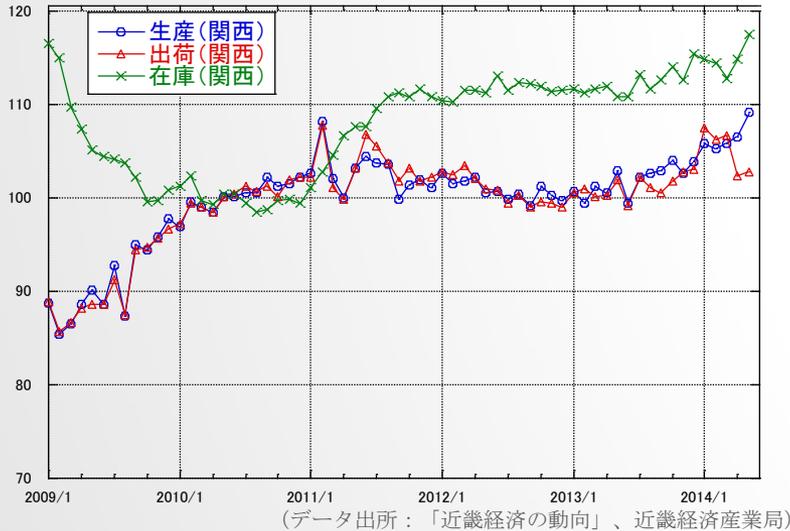


## ～目次～

|           |   |
|-----------|---|
| 生産        | 1 |
| 輸出入       | 2 |
| 消費者センチメント | 3 |
| 個人消費・住宅   | 4 |
| 雇用        | 5 |
| 公共投資      | 6 |
| 中国経済動向①   | 7 |
| 中国経済動向②   | 8 |

# ～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年5月まで), 2010年=100



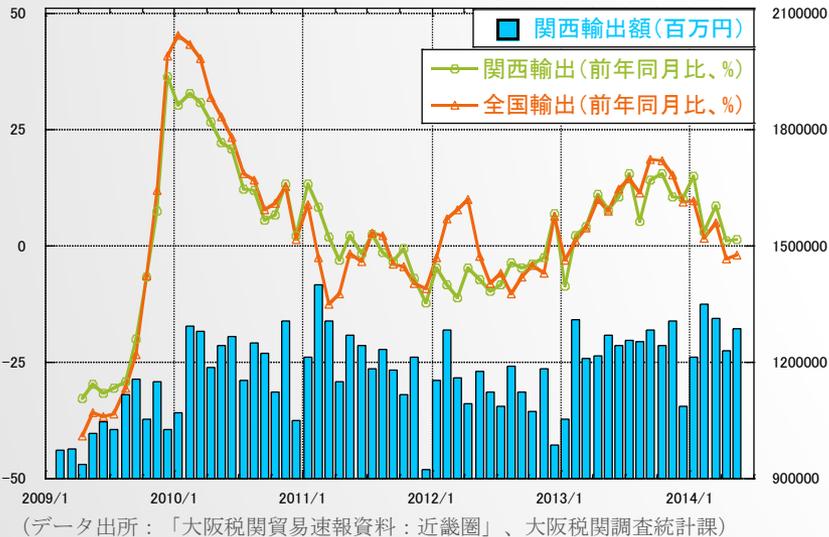
鉱工業指数の推移(全国・2014年6月まで), 2010年=100



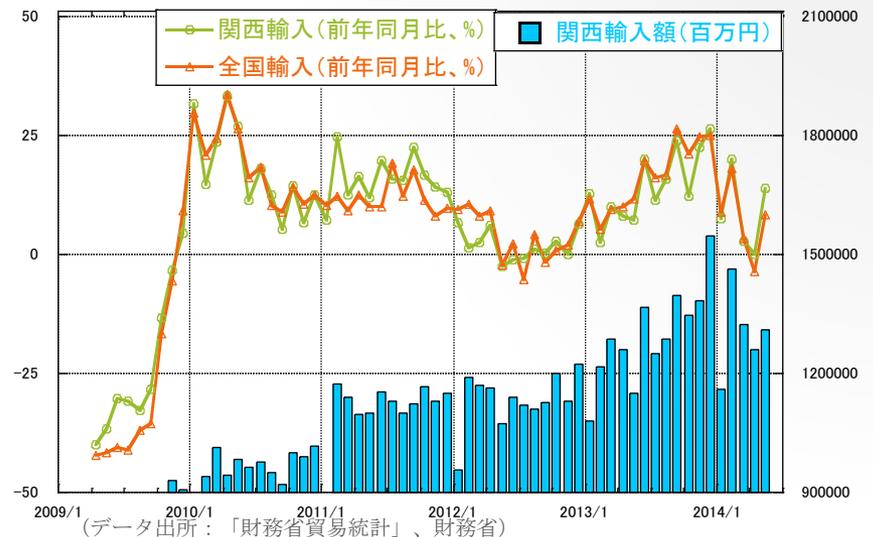
- 関西における5月の鉱工業指数(確報値:季節調整済)は、生産は109.2で前月比+2.5%と3カ月連続の上昇、出荷は102.8で同+0.4%と2カ月ぶりの上昇。在庫は117.5で同+2.3%と2カ月連続の上昇であった。
- 業種別に生産指数をみると、化学(除.医薬品)(同+3.8%)、鉄鋼(同+2.8%)、情報通信機械(同+5.6%)等が上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-4.4%)、電子部品・デバイス(同-3.2%)等が下落した。
- 生産指数は速報値(同+0.2%)から上方修正された。消費増税後、2カ月連続で生産は増加しており、4-5月平均は、1-3月期平均と比して+2.0%高い水準となっている。
- 全国における6月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は96.7となり前月比-3.3%と2カ月ぶりの下落。結果、4-6月期は前期比-3.7%低い水準となった。同月の出荷は95.2で前月比-1.9%と5カ月連続の下落。在庫は110.5で同+1.9%と2カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、輸送機械(同-3.4%)、はん用・生産用・業務用機械(同-3.0%)、情報通信機械(同-9.0%)等を中心に幅広い業種で減産となった。
- 6月の減産幅は前月の生産予測調査の予想(同-0.7%)より悪化した。また同予測調査によれば、7月は同+2.5%の増産(前月見込み同+1.5%)、8月は同+1.1%といずれも増産の見込みである。足下、6月までは増税後の反動減が見られたが、今後は生産が回復に向かう見込みである。

# ～輸出入～

輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年5月まで）



輸入動向（右：輸入額、左：前年同月比）（2014年5月まで）

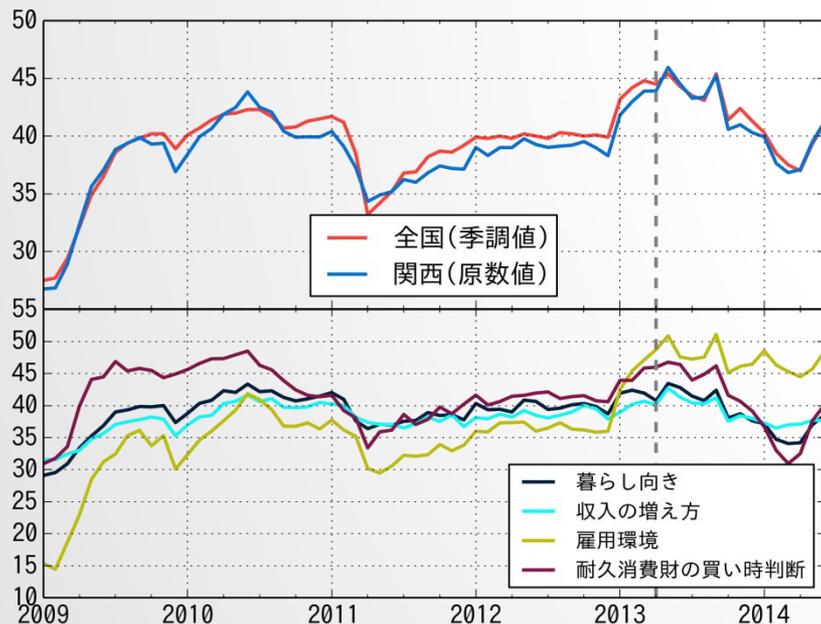


- 関西6月の輸出額（速報値）は1兆2,886億円、前年同月比+1.5%と16カ月連続の増加だが、4カ月連続で1桁の伸びとなった。
- 輸出増加に主に貢献したのは、鉄鋼、原動機(単月過去最高)、有機化合物(単月過去最高)であった。
- 4-6月期は前年同期比+3.7%と5期連続の増加も、伸び率は3期連続で減速。結果、上半期の輸出額は、7兆4,845億円となり、前年同期比+6.2%と3期連続の増加となったが、伸び率は前期(+11.9%)から減少した。
- 全国6月の輸出額（確定値）は5兆9,405億円、前年同月比-1.9%と2カ月連続の減少。半導体等電子部品、有機化合物、鉱物性燃料等の輸出が減少した。

- 6月関西の輸入額（速報値）は1兆3,103億円と単月過去最高を更新。前年同月比+13.8%と先月の横ばいから増加に転じた。
- 財別に見れば、原油及び粗油、半導体等製造装置等を中心に大幅増加。いずれも単月過去最高額である。
- 4-6月期で見れば、前年同期比+5.2%と7期連続の増加も、伸び率は3期連続で減速。結果、上半期の輸入額は8兆671億円と過去最高額を更新し、前年同期比+11.7%と9期連続の増加。伸び率は2期連続で2桁となっている。
- 全国の6月の輸入額（速報値）は6兆7,637億円、前年同月比+8.4%と2カ月ぶりの増加。財別に見れば、原粗油、石油製品、液化天然ガス等の輸入が増加した。
- 結果、6月関西の貿易収支は-217億円と4カ月連続の赤字となり、前年同月比1,401億円悪化。全国の貿易収支（速報値）<sup>2</sup>は-8,232億円と24カ月連続の赤字(前年同月比+356.0%)。

# ～消費者センチメント～

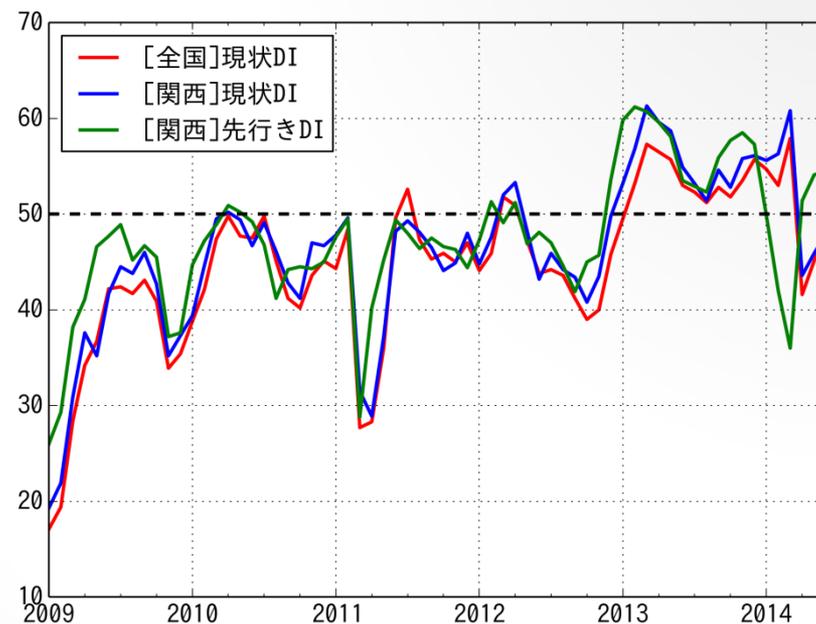
消費者態度指数(2014年6月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年7月10日公表)

- 関西の6月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.7ポイントの41.2と、3カ月連続で改善した。冷え込んでいた消費者心理は改善しつつある。
- 同指数の構成項目をみると、4つの指標のうち3つが改善、1つが横ばいとなっている。「暮らし向き」は同+1.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同+2.5ポイントといずれも3カ月連続のプラス。「収入の増え方」は同+0.0ポイントと前月から横ばいとなった。「雇用環境」は同+2.7ポイントと2カ月連続のプラスで、14年1月以来の高水準。
- なお全国の6月の消費者態度指数(季節調整値)は41.1となり、同+1.8ポイントと2カ月連続で改善している。

景気ウォッチャー調査(2014年6月まで)

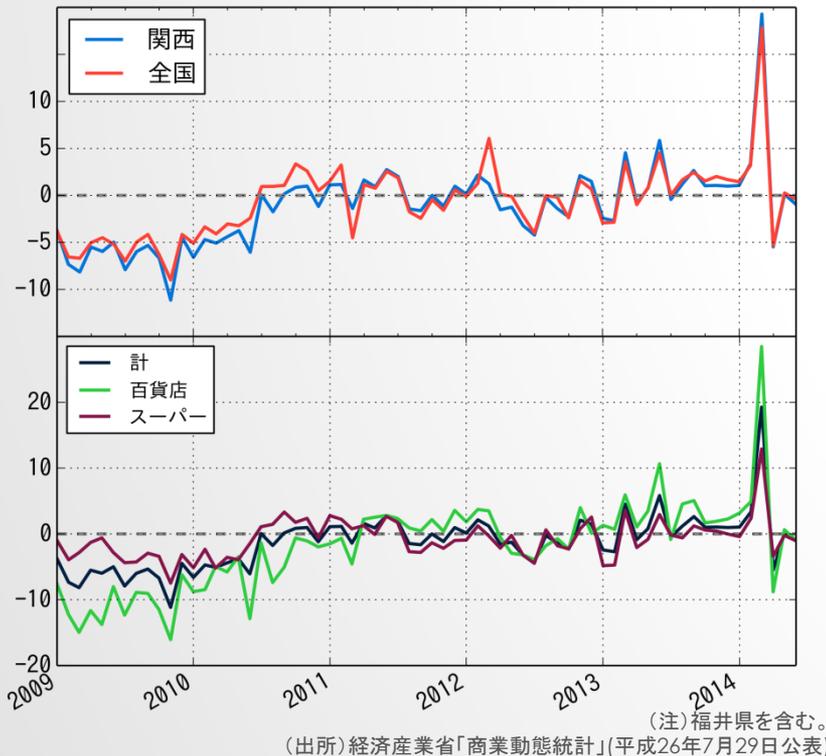


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年7月8日公表)

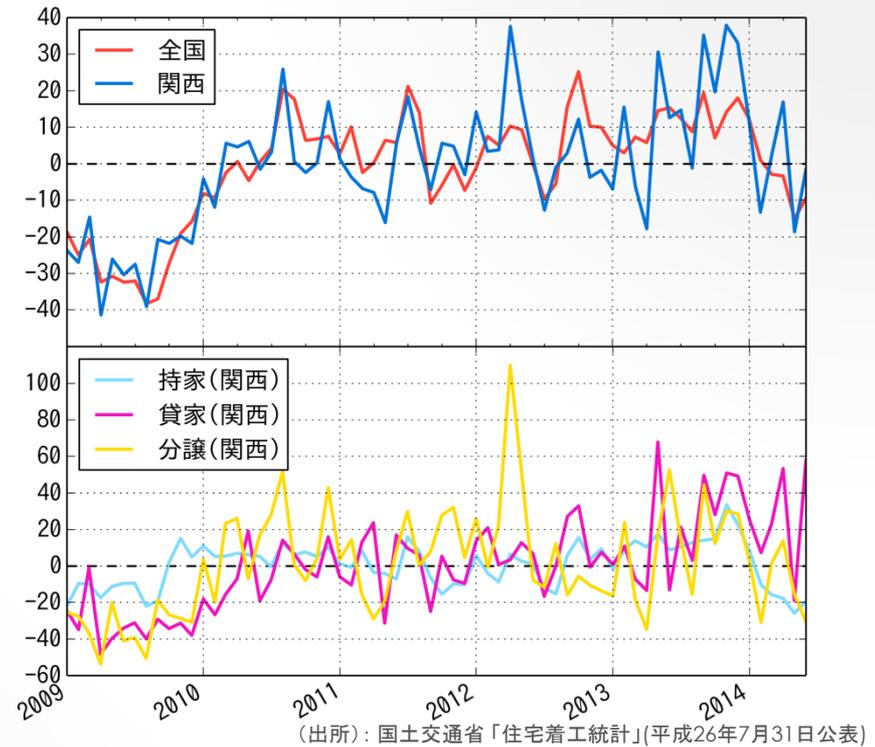
- 関西の6月の現状判断DIは前月比+2.0ポイントと2カ月連続で改善し47.9となった。
- 夏のボーナス支給もあり、百貨店や自動車販売を中心に駆け込み需要の反動減の影響が小さくなっているようである。
- 全国も同+2.6ポイントの47.7と2カ月連続の改善。
- 先行き判断DIは、関西では前月比+0.4ポイントの54.5と3カ月連続のプラス。
- 全国では同-0.5ポイントの53.3と3カ月ぶりのマイナスとなった。

# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年6月まで)



新設住宅着工(前年同月比:%、2014年6月まで)

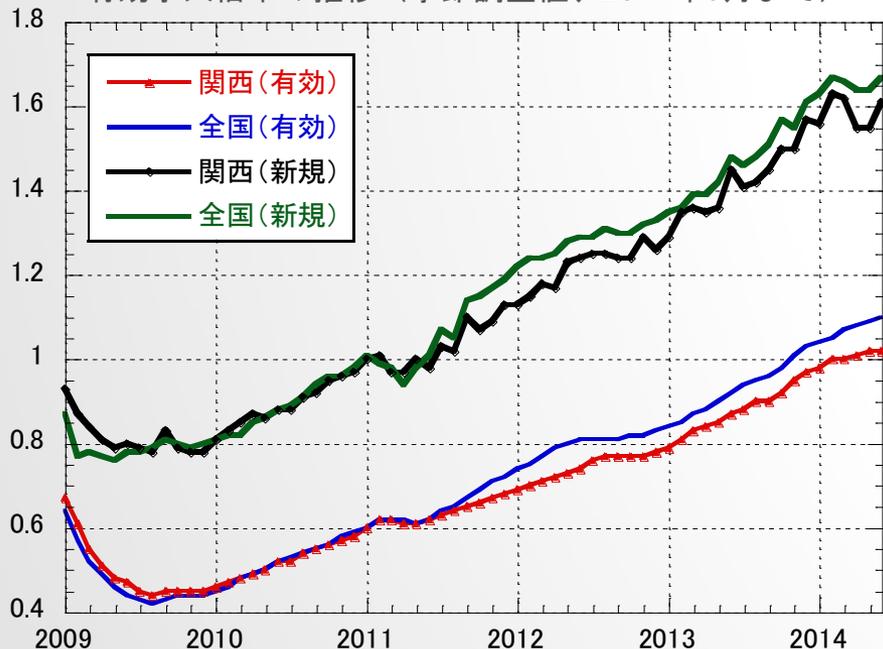


- 関西の6月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-1.0%と2カ月ぶりのマイナス。
- 百貨店も同-0.9%と2カ月ぶりのマイナス。
- スーパーは同-1.0%と3カ月連続のマイナス。
- 消費増税から3カ月が経過し、前年同月を下回っているものの、駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつある。
- 全国でも、6月の大型小売店販売額(全店ベース)は同-1.2%と3カ月連続のマイナスとなっている。

- 関西の6月の新設住宅着工戸数は12,018戸。前年同月比-1.6%と2カ月連続の下落となったが、下落幅は前月(同-18.6%)から大幅に縮小した。
- 全国では同-9.5%と4カ月連続で下落している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-19.3%と5カ月連続の2桁減、分譲が同-30.5%と2カ月連続の2桁減である一方で、貸家は同+57.5%と2カ月ぶりの前年比大幅プラス。
- なお6月の関西マンション契約率は76.4%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を33カ月連続(原数値は5カ月連続)で上回り、好調を維持している。

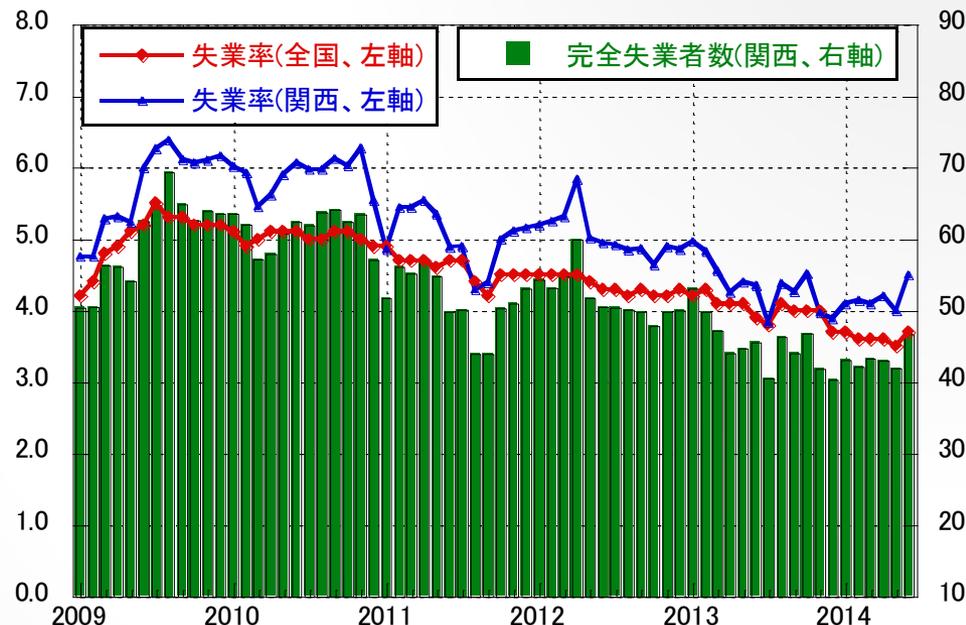
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年6月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(2014年7月29日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年6月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」(2014年7月29日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年6月)

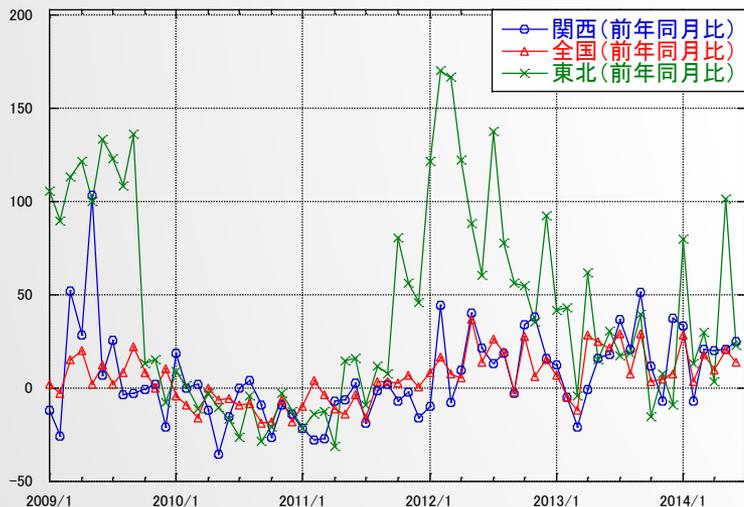
|    | 全国   | 関西   | 滋賀県  | 京都府  | 大阪府  | 兵庫県  | 奈良県  | 和歌山県 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 6月 | 1.10 | 1.02 | 0.98 | 1.04 | 1.11 | 0.88 | 0.89 | 1.05 |
| 5月 | 1.09 | 1.02 | 1.04 | 1.01 | 1.10 | 0.88 | 0.90 | 1.06 |

- 6月の関西の有効求人倍率は、製造業や建設業で引き続き求人数が伸びたものの、1.02倍で前月比横ばい。2014年2月以来5カ月連続で1倍台を上回った。全国は1.10倍で同+0.01ポイント上昇。19カ月連続の改善で、前月(1.09)に引き続き、高水準を維持。
- 6月の関西の新規求人倍率は、1.61倍と前月比+0.06ポイント上昇した。全国も1.67倍と同+0.03ポイントの上昇。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、大阪府と京都府では増加したものの、滋賀県では再び1倍台を下回った。

- 6月の関西の完全失業率は4.5%となり、前月(4.0%)から+0.5ポイントと大きく上昇した。これは労働力人口の増加(前月比+17万人)によるものであり、雇用環境は引き続き好調。(数字はいずれも季節調整値：APIR推計)
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.7%となり、前月から+0.2ポイント上昇した。10か月ぶりの悪化であるが、関西と同様、労働力人口増加と自発的な離職(自己都合)の増加によるものである。
- 就業率(原数値ベース)をみると、72.9%で前月(73.0%)と引き続き好調を維持している。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は46.7万人。前月から5万人増加した。

# ～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年6月まで)

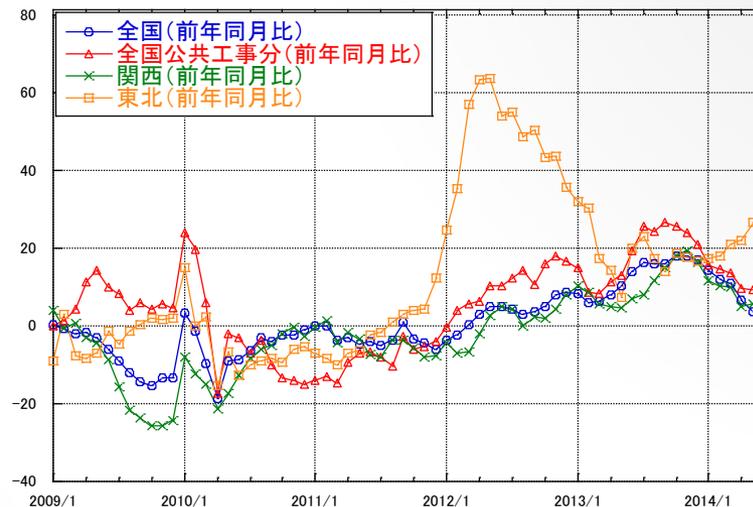


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 6月関西の公共工事請負金額は1,883億円。前年同月比+25.0%と4カ月連続のプラス。伸び率は4カ月連続で20%台が続いている。
- 全国は1兆5,855億円と同+14.3%、15カ月連続のプラス。
- 東北は2,728億円で同+23.0%と、6カ月連続のプラス。
- ただし季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国とも3カ月ぶりの前月比マイナス(関西：同-6.6%、全国：同-15.3%)となった。前年比では高い伸びを見せているが、足下、一時の勢いが無くなってきている。

建設工事(前年同月比:%、2014年5月まで)

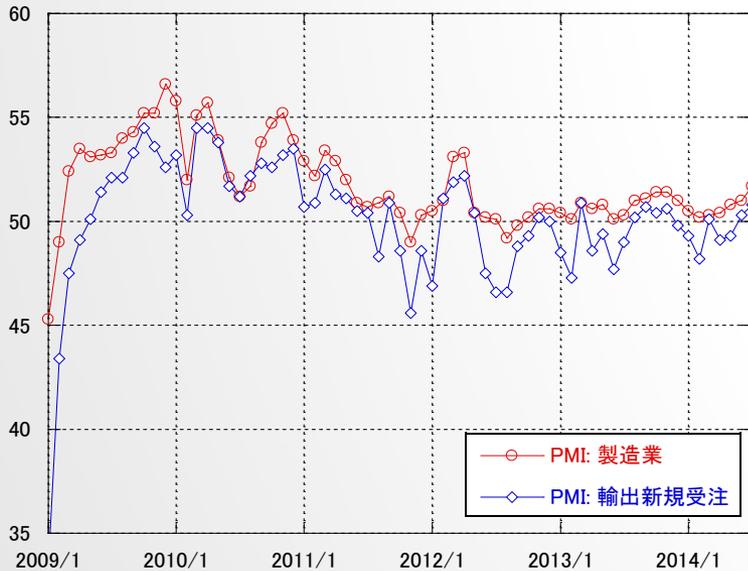


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西5月の建設工事は4,505億円。前年同月比+5.7%と25カ月連続のプラス。
- 東北は4,390億円、同+26.7%と34カ月連続のプラス。伸びは依然20%台を維持している。
- 全国は同+3.7%増加し3兆4,352億円となり、27カ月連続のプラスだが、7カ月連続で減速。全国の公共工事は1兆3,011億円、同+9.4%と28カ月連続のプラスだが、8カ月連続で伸びは減速。
- 先月以来、高水準の未消化工事残高により、公共工事請負金額と出来高との間に乖離が見られる。今後も、建設工事の進捗動向に注意が必要である。

# ～中国経済動向①～

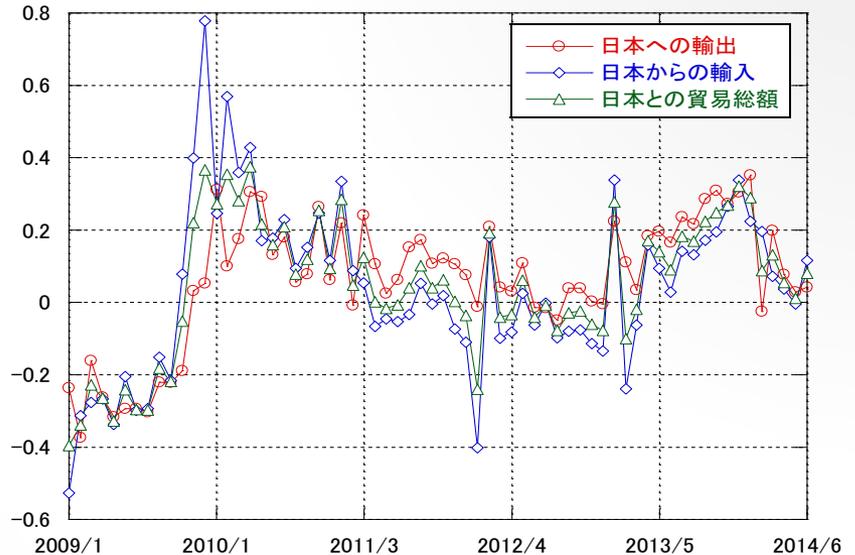
中国製造業購買担当者景況指数 (2014年7月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 7月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から+0.7ポイント上昇し、51.7となった。5カ月連続の改善。
- うち、生産指数は54.2と同+1.2ポイント上昇し、3カ月連続の改善。新規受注指数は53.6となり、同+0.8ポイント上昇し、5カ月連続のプラス。
- 輸出新規受注は同+0.5ポイント小幅上昇し(3カ月連続の改善)50.8となり、2カ月連続で50を上回った。
- 一方、雇用指数は48.3となり、同-0.3ポイントと低下し、2カ月ぶりの悪化となった。2012年6月以来、26カ月連続で50を下回っている。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年6月まで:%)



出所：中国海关总署;CEICデータベース

- 6月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+7.2%増加し、3カ月連続のプラスとなった。輸入額は同+5.6%(速報値)となり、前月(-1.6%)からプラスに転じた。
- うち日本への輸出額は同-0.6%と4カ月ぶりの小幅マイナスとなった。日本からの輸入額は同+6.6%と4カ月ぶりのプラスとなった。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+4.1%となり、4カ月連続のプラスとなった。日本からの輸入額は同+11.6%となり、前月(-0.4%)よりプラスに転じた。

# ～中国経済動向②～

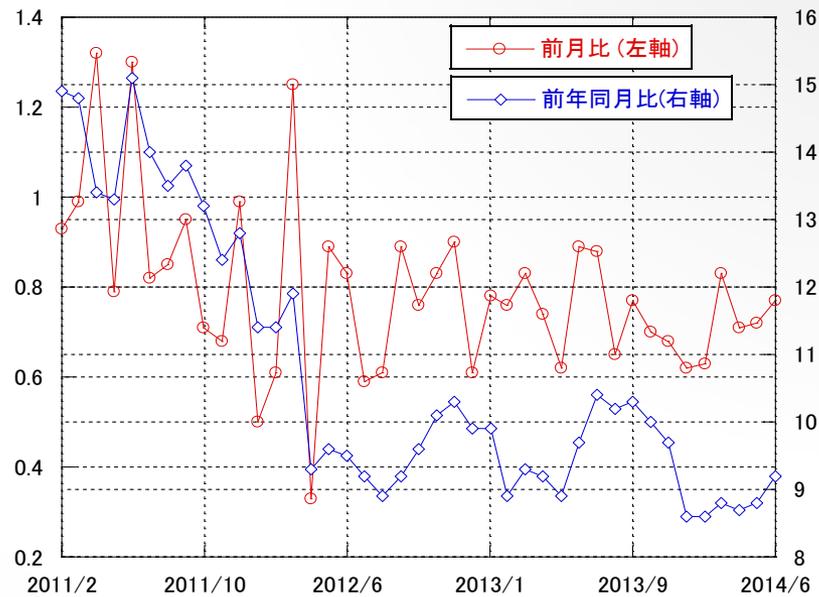
GDP (2014年4-6月期まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 小幅の景気刺激策の影響により、2014年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.5%となり、前期の同+7.4%と比べて幾分加速した。市場コンセンサスを上回る結果であった。しかし8%を下回る成長率が9期続いている。
- なお2014年1-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.4%である。
- 業種別にみると（1-6月期ベース）、第1次産業の成長率は同+3.9%、第2次産業は同+7.4%、第3次産業は同+8.0%となった。

工業生産動向(2014年6月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 6月の工業生産は、前月比+0.8%と2カ月連続の改善（5月同+0.7%）である。前年同月比は+9.2%と前月(+8.8%)より拡大した。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業（前年同月比+16.1%）、パソコン・通信製造業（同+14.3%）、医薬製品製造業（同+14.2%）、自動車製造業（同+13.6%）が高い伸びを示す一方で、繊維工業（同+6.4%）、鉄鋼などの製錬・圧延加工業（同+6.2%）、電力・熱力生産・供給業（同+3.4%）は比較的低調な伸びにとどまった。